

売るより買うほうが難しい(4)

おいしく食べたい。

有限会社 良品工房
白田 典子

私が主宰している『いいものプロジェクト』の実食・実感モニタリングに商品評価の申し込みをしてくるのは、地方で小さいながらも一生懸命ものづくりをしているメーカーさんがほとんどだ。素材選びにも、腕にも、もちろん味にも自信がある」という商品がエントリーされてくる。しかし、実際に食べた人の7割以上が「今後も続けて買いたい」と支持する確立は全体の3割程度である。結構厳しい。

味、品質、価格といったつくり手・売り手が立てたありきたりの仮説や基準だけで、買い手は商品を選んでいるのではないということはいままでさんざん書いてきた。単なる「おいしいもの」だけではもはや買い手は満足できない。以下のコメントを一読して欲しい。

「このうどんは茹で時間が短いのがいい。夏の暑いときに長時間、火は使いたくないから」

「このコンニャクは表面に切れ目が入っているので、お箸でつかみやすいし、味が絡みやすくてよかった」

「このお蕎麦は、普通のものよりちょっと短めなのがよかった。なぜなら、大きな鍋を出さなくてもすっぽり入って茹でやすかったから」

「味はよかったが、食べられるまでに20分もかかる冷凍食品は不便」

「ガーゼで包んであるのは丁寧な仕事をしている感じがしていいと思うが、パッケージにわかるようにそのことを書いてないと、粕漬けなのでガーゼで包んであるとわからずにそのまま焼いてしまいそう」

『いいものプロジェクト』には基本的においしくないものはエントリーされてこない。

はっきり言ってどれもこれもある程度のおいしさのレベルには達しているものばかりだと私は自負して

いるし、現にモニターさんたちも「どれもこれもおいしいものばかり。次はなに？」と、モニタリングを楽しみにしてくれている。しかし、7割以上の支持を得て「みんながえらんだいいもの」に認定されるのは、先述したように約3割程度なのである。これを言い換えれば、消費者にとっては「おいしいことは最低基準」だということだろう。

どんなにおいしいものであっても、使う人や食べる人の気持ちをわかった商品でないと歓迎はしてもらえない。「今後も買いたいと思うか、思わないか」は、そのおいしいものが気持ちよく使うことができるか、気持ちよく食べることができるかどうかで判断される。

以前、私にもこんな経験があった。スーパーで試食販売をしていたドレッシングがおいしかったので、買って帰った。その晩、おいしいサラダが食べられると思って期待していた。野菜をたっぷり用意して「さあ、食べよう!」と思って、ピンを振ってドレッシングをかけたその瞬間、ボトルから出たのは油だけ。何度も振ってはかけ、振ってはかけをしてみたけれども、出たのはほとんど油だった。試食のときは、販売員がスプーンで混ぜながら容器からかけてくれていた。私は家でそんなことはしない。ピンから直接かける。おいしいはずだったドレッシングがこんな理由でちっともおいしく食べられなかった。気持ちよく食べられなかった。

こんな経験もある。仕事で帰りが遅くなったときに、あるスーパーで握りずしを買って行った。お腹をすかせてイライラしている息子に「奮発してお寿司を買ってきたよ!」と急いで帰った。ところが息子はよけい不機嫌になった。「イカが血生臭い!」と。

白いイカの隣には、マグロのドリップがベツリついていた。せっかく一番高い握り寿司を買ったのに、結果はこれだった。私たちは「おいしいものを食べたい」というより「おいしく食べたい」と思っているのだ。

法人協会ニュース

今年は長崎で！

第9回全国担い手サミット「ながさき」のご案内

全国の「地域農業の担い手」が一堂に会し、それぞれの経営基盤が将来に向け、安定かつ発展するよう、現状や課題認識を更に深め、農業の将来を語り合い、相互研鑽・地域交流を行い、自らの経営確立と地域農業の振興に貢献するため、全国担い手サミットが長崎県内において開催されます。是非ご参加ください。

< 日程 > 10月26日(木)～27日(金)

< 場所 > アリーナかぶとがに(長崎県立総合体育館)

< テーマ > おおいに語ろう! 担い手たち～農業の未来と夢、そして可能性

< お問合せ > 実行委員会事務局(長崎県農業会議)

TEL 095-822-9647 E-mail: nca05@bronze.ocn.ne.jp

秋まき麦を作付の皆様へ。
品目横断的経営安定対策の加入申請受付が開始されました!!

農林水産省では、従事者の減少や耕作放棄地の増加等が進む国内農業の体質を強化し構造改革を加速化するため、(1)これまで全ての農業者を対象に、米、麦、大豆といった品目ごとの価格に着目して講じてきた政策を見直し、(2)19年産からは、意欲と能力のある担い手(一定の経営規模以上等の要件を満たす認定農業者及び集落営農組織)を対象を絞り、[1]諸外国との生産条件の不利を補正するための交付金、[2]豊凶変動等に伴う収入減少の影響を緩和するための交付金を交付することにより、担い手の経営の安定を図ることとしています。(品目横断的経営安定対策)

本件について、加入申請受付が開始されることになりましたので、お知らせします。

1 加入申請の対象者

今秋、秋まき麦を作付ける農業者であって「収入減少影響緩和交付金」の交付を受けようとする農業者。

(その他の農業者の受付期間は来年の4月1日～6月30日となっています。)

2 受付期間

9月1日(金)～11月30日(木)

3 受付窓口

地方農政局、地方農政事務所(全国170箇所余りの農政

推進課及び地域課)及び統計情報センター(一部除く)。
(受付窓口では書類の受付のほか、農業者等からの相談等にも応じます。)

【問い合わせ先】

農林水産省経営局経営政策課

担当 實井、龍

代表 : 03-3502-8111(内線 4182 4156)

http://www.maff.go.jp/www/press/2006/20060829press_5.html

「グルメ&ダイニングスタイルショー」のご案内が、お手元に届くかと存じます。

9/4付けで皆様のところへ(株)ビジネスガイド社の封筒で「第1回グルメ&ダイニングスタイルショー2007」の開催要項、DVD等が郵送されます。この展示会は「食卓」を切り口に、「食」に関わるビジネスを集約し、新しいマーケットとライフスタイル・食文化の創造を目指す。』をテーマに、食にまつわる様々な業種が参加する新しい試みの展示会です。

2007年4月4日(水)～6日(金)に東京ビックサイト東展示棟6ホールにおいて開催される「第1回グルメ&ダイニングスタイルショー2007」には、当協会も協賛します。

ご興味ある方は、事務局までお問い合わせ下さい。また出展のご意向の方は、郵送いたします用紙を当協会宛にFAXください。

「プロ農業100年計画」 アンケート調査のお願い

何度かご案内いたしました、先日「プロ農業100年計画」についてのアンケート票を全会員の皆様にご送付いたしました。

これは、会員の皆様将来どのような農業経営を目指しているのか、またその目標に向かう上で課題となることは何なのか、それを解決するために法人協会としてどう機能的に活動していくべきか、等を整理しビジョン作成のための素材となるアンケートです。

アンケート票は、お手元に届いておりますでしょうか?書き込む事が多くてお手数をおかけいたします。

どうか約1700社 全会員の皆様の率直なご意見をお聞かせください!!ご返信をお待ちしております。

アグリビジネス経営塾 第307号

本紙に関するお問合せは下記までお願いします。
社団法人日本農業法人協会

(HP <http://www.hojn.or.jp/>)

TEL: 03-5156-0365/ FAX: 03-5156-0366

MAIL: juku@hojn.or.jp

©(社)日本農業法人協会 2006

本紙掲載記事の無断転載を禁じます。